

日野青い鳥福祉会  
2021年度 本部事業報告

はじめに

2021年度は役員改選期であり、かつ理事長交代の状況を踏まえて、新たな役員等の顔合わせの下に力を合わせて進めたいと願ってきたが、コロナ禍で叶わずにスタートした。一方、現場的には2生活事業体制に切り替えたことで、あわただしさの中でも新鮮さを感じるスタートとなった。

1、理事会・評議員会の開催

コロナ禍で対面会合が開催できない状況であった。

- ・6月 新理事会、新評議員会 谷水新理事長選任等も書面で進めた
- ・11月 臨時理事会、評議員会をコロナ禍の合間に開催し、それぞれの顔合わせとした
- ・2月 予算理事会は法人実情が閉所の憂き目に重なり書面とした

この間、法人活動の紹介として折々のエピソード集、職員紹介集などを配布し、現場の息吹をお伝えした。

2、法人重点目標の振り返り

(1) 新事業体制-2生活事業所の整備

- ①初村青い鳥日野施設長を登用し、宮本あおいと上田施設長とで運営にあたる
  - ・B型利用者の加齢化による働きづらさの点を考慮して生活介護事業に一本化した
  - ・分散型事業所の意思疎通の円滑さの課題を小回りが利く体制にすることでフォローした
  - ・また、施設長管轄の下に主任掌握、施設長掌握の担務分担をして、かつ支援の掌握範囲を分掌し、現場と役職者の風通しを良くすることにした。
  - ・これらは、組織形成的には有効であった
- ②役職職員が足りず、事務長兼任 GH 所長体制を継続した
  - ・恒常的な長時間勤務など課題を承知つつの運営であった

(2) 人材育成を図る

- ①エピソードまとめの活用
  - ・6月、9月、11月家族会で利用者エピソードをまとめ本人分の配布をした
  - ・各部署で読み合わせて、利用者の見方、関わり方、解釈の仕方等を具体例に即して学ぶ機会とした。
  - ・全利用者のまとめであり、常勤、主だった非常勤職員が加わり分量的にも十分の内容であった。
- ②外部講師研修の中断
  - ・外部派遣が難しい職員状況をカバーするため外部講師招聘研修に力点を置いていたが、コロナ禍で外部との交流を控えることにした。

### ③内部講師研修に力点を置く

・自由研修（2施設長担当、平山・上田合同）、所長研修（GH担当）、理事研修（上田担当）で、月1の研修を継続した。

・10人弱の参加のため、20分程度の課題提案・講義、40分ほどの全員発言の意見交換の形ですすめた。

### ④オンライン研修の限界

・職場内で場所が確保しづらく管理者等が数回程度の利用であった

## （3）適切な労務管理をする—第三者評価の活用を図る

①現場職員、主任等リーダー層からの意見を運営に取り入れ、労務管理に資する

### ②時間外の常態化

・効率的な振り返りの運営に向けてマネジメントのもとに運営する

・曜日、時間の目安の打ち出し

③運営委員会の方針の浸透が不確かで意思の疎通を欠くとの指摘

・部署別実務者会の新設により直接リーダー層（主任）の参加により、周知、意見交換の場を月2回設けた。

## （4）プロジェクトの充実

### ①継続プロジェクト

1) 2040年問題、2) エピソード、3) 職場づくり（労務管理）、4) パン会議、5) 工賃検討、役割分担をして毎月定期、課題に応じて随時の開催をしている。

②法人課題の方向性、対処策のたたき台を練っている。その後、理事長参加の運営委員会に提案し合議を図ることになる。

## （5）親の会との連携—法人・親の会ミーティング

①普段出会わない方々を交えた会合であり、コロナの新規陽性者数の状況を見ながら開催を随時検討してきた。

②10月開催時に、現在の代表制の意見交換の限界から体制変更を提案した

・内容的に、法人からの問題意識による情報伝達になりがちであった

・自由参加の会にし、それぞれの親の立場からの思いを語っていただくことに力点を置くことにした、改めて親の思いを知り、協力関係を深める提案になった。

・手をつなぐ親の会側の了解も得たが、コロナ禍で開催ができていない

③また親の会会長交代があり、谷水法人理事長が手をつなぐ親の会会長を兼務する形になり、今後の連携を一層進めてゆきたい。

## 3、コロナ対策とコロナ禍の経過

### ①基本対策の徹底

・三密対策の徹底、対外的な行事への参加自粛、法人全体行事の部署内行事への切り替え、利用者の販売活動への参加自粛等、感染しない、感染させない対応に徹してきた。

## ② 予防接種関連

- ・6月から都対策の一環として GH 職員対象に毎週 PCR 検査を継続してきた
- ・7月～8月、ワクチン職場接種を嘱託医により職員対象、利用者対象で8月に2回目の接種が完了した。
- ・11月には、インフルエンザ予防接種をした
- ・3月に3回目のワクチン接種が済んだ

## ③ 通常体制への回復状況－10月末から

- ・第5波の緊急事態宣言が解除され、リバウンド観察期間を過ぎて、外出、法人・親のミーティング、家族会等動き出している。
- ・状況確認が必要になるかと思われるが1月下旬～2月初旬にガイヘル養成研修の再開を都申請した。
- ・年明けからオミクロン株の急激な拡張に侵食されて近辺のお付き合いのある3知的事業所で、また当青い鳥からもクラスターが生じ、书面決議をお願いすることになった。

## ④ オミクロン株の急激拡大

1) 2月上旬、GH・夜勤者陽性確認－関係する職員3人陰性、利用者接点なし

2) 2月中旬、あおいとり上田職員1名－陽性確認

7日間上田1F閉所とし、自宅待機利用者3名、GH待機利用者4名、他法人GH待機1名となった。

3) 2月下旬、あおいとり日野・GH利用者2名、職員1名－陽性確認

・陽性者10日隔離、利用者の濃厚接触者の確定がしきれず閉所7日間とした

・GH隔離／待機 自宅隔離ができない陽性者2名はGH隔離した

・ほぼ同時期に、あおいとり日野職員の家族、あおいとり上田職員の家族が陽性で、濃厚接触者7日間、各職員自宅待機となる。

・2名職員、24時間体制で隔離10日間をフォローしてくださる

4) 3月上旬、家庭不調の認識がありながらの利用で、午前中の帰宅をお願いしたが本人陽性であった。濃厚接触の不安が強く、7日間の閉所を選択することになった。

## ⑤ オミクロン株閉所に関して

・陽性者かかりつけ医療機関の判断と日野市「新型コロナあんしん健康相談室」の濃厚接触者の判断にずれがあったが、家庭のご協力の下に安全策を取らせていただいた。

・医療崩壊的な現実であり、判断基準も揺れている－安易にせず、動揺せずに法人として社会的な許容基準を想定して対処に心がけた。

・陽性者でワクチン未接種の方は、利用者3名、職員1名になる－利用者は通院も難しい方であり、医療との連携の大事さを痛感する。

・帰れない方の隔離／待機拠点にGHを活用した、現実的にこの場所が確保できたことで安堵している。この間に感染を招いたことは不手際として反省する。

- ・また2名の職員が率先して感染リスクを広げないため二人で関わる旨、お申しでいただき感謝である。
- ・コロナ禍が終息したわけではなく、今後の心配を抱えながらであり、丁寧に進めていく